

Public Voices 声のらん

皆さんの「声」にお答えします。

《声のらん》では、「市長への手紙・ポスト」などに寄せられた声とその答えの中から、市民の皆さんの参考になる問答をご紹介します。(内容確認のため、連絡先と名前をご記入ください。)
【〒066-8686 / 東雲町2丁目34 / 千歳市企画部広報広聴課宛】

市からアンケート調査が届きました。 なぜ私に? 何のために? *

〔50歳代/女性〕

声

先月、市から《千歳市民まちづくりアンケート》が送られてきました。近所の方の話では、「ご夫婦それぞれに送られてきた方もいるようですが、アンケートの対象者はどのように選んでいるのですか。また、回答結果は何に使用されるのでしょうか。」



全体の意見を反映した、信頼できる調査結果を得るためには、対象者の無作為抽出が必要です。また、回答については、性別や年代、居住地域別の分析や過去の調査結果との比較などを行い、市民の皆さんが必要と考えていることを把握し、これから行う計画策定に向けた作業に生かします。

答 9月中旬に、ご家庭にお送りした《千歳市民まちづくりアンケート》は、今後10年間(2021年~2030年)の市のまちづくりの基本的な方向性を示す《千歳市第7期総合計画》の策定に向け行ったもので、市民の皆さんの普段のお考えなどを計画や事業に反映させるための大切な調査です。

お答えします

企画課(長期総合計画策定担当)
☎(24)04339 FAX(22)80052

今回のアンケートの対象者は、18歳以上の市民(約8万人)の中から3000人の方を無作為に抽出(※)しています。そのため、お話のとおり複数の方が対象となったご家庭がある一方で、ごなたも対象にならなかったケースもあります。

※《無作為抽出》とは、くじ引きのように誰もが同じ確率で選ばれる抽出方法です。今回は、名簿の中から最初の対象者をランダムに決定し、2人目以降はあらかじめ決めておいた間隔・市街地は27人ごと、それ以外の地区は20人ごと(地域別の傾向を分析するために必要なサンプル数を確保するため)で、順に対象者を決定しています。



新市史下巻発刊に向けて

シリーズ第7回(全12回)
駆け抜けていった
ボウリングブーム
筆者・久原直利

市史編さん担当
☎(24)0523 FAX(42)3134

昭和 和40年代中ごろ、須田開代子、中山律子などのプロボウラーの人気から、日本に空前のボウリングブームが到来しました。

千歳ではブーム前の40年に千歳興業(株)が清水町(現・北ガスの位置)の映画館《千歳座》に併設開業した《千歳ボウリングセンター》(後に千歳ボウル)が最初のボウリング場です。道内では6か所目、まだ札幌、函館、旭川にしかない時代でした。

ブームが到来すると46年には国道36号沿いに《千歳ファミリィボウル(現・丸畑家具の建物)》と《フジボウル》が、47年には千代田町に《エルバードレイン(現・北洋銀行の位置)》が開業し、民営のボ



千歳ボウリングセンター(左)と千歳座(右) (昭和42年撮影) 【写真提供/ASAチトセ協会】

ウリング場は一気に4か所に増加しました。陸上自衛隊東千歳駐屯地と航空自衛隊千歳基地内にも隊員用のボウリング場が作られました。恵庭市に3か所、広島町にも1か所のボウリング場があり、千歳線沿線は道内一の過密地帯でした。それでも各施設とも客が順番待ちをするほどの大入りの日が続きました。

しかしボウリングブームは長くは続かず、オイルショックによる不況の影響もあり、客足は徐々に遠のきはじめました。49年から57年ごろにかけて、3館が閉鎖になり、ついには現在も営業を続けるフジボウル1か所のみとなりました。